

科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

(133)

身近に迫る危機

2007年に販売が開始されたスマートフォンはその後驚異的な速さで普及し、20年度

の全世界での出荷台数は13億台であった。もはやスマートフォンは単なる通信のためだけでなく、人々の生活に欠くべからざる存在になっている。会員制交流サイト(SNS)やネット通販などさまざまなサービスも日常的に利用されている。

また、家庭の電気製品や自動車などの身の回りの物から電気やガスなどの社会インフラに

至るまでもがネットワークにつながるはじめる。このような状況の中、図に示すように多種多様なマルウェア(不正プログラム)が増加し、ランサムウェアなど攻撃手法も多様化しているため、セキュリティの脆弱性を利用した軽減「大規模・実データのデータに基づいた研

究が非常に重要である。したがって、実データ企業と大学の研究者がある。さらに情報セキュリティを高めるにはそれだけでなく、人材育成、法制度を整えるといったことも研究に加えて重要になる。

緊密な連携

このような状況に対処するためには、情報セキュリティの研究開発も必須である。この領域の共通課題として、「サプライチーに関する研究が必要だが、そのためには実際

の脆弱性を利用した軽減「大規模・実データのデータに基づいた研

究が非常に重要である。したがって、実データ企業と大学の研究者がある。さらに情報セキュリティを高めるにはそれだけでなく、人材育成、法制度を整えるといったことも研究に加えて重要になる。

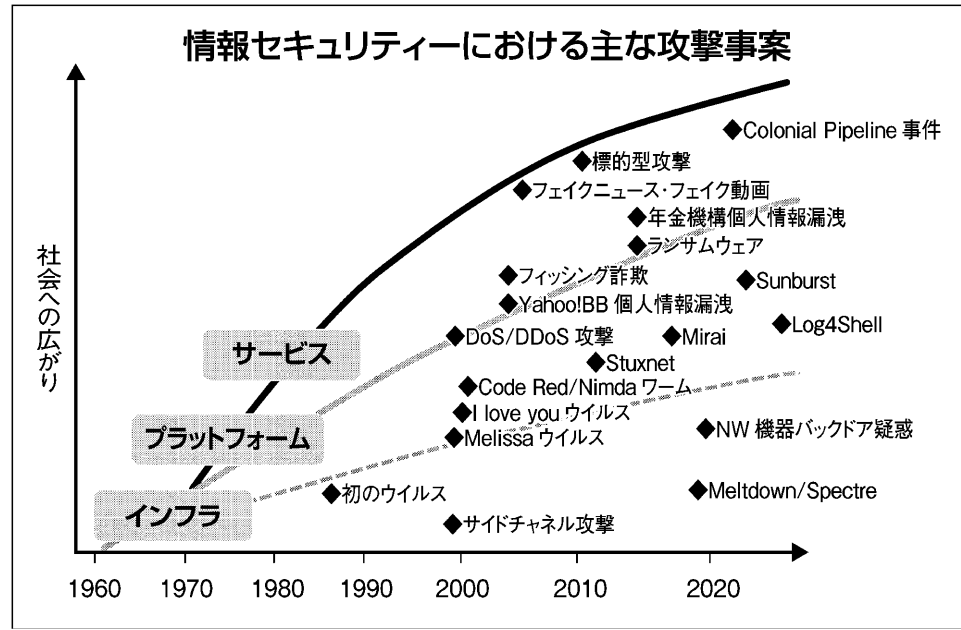
社会の重要なインフラである情報システムを守り、安全かつ安心な社会を実現し、維持していくために、産学官の緊密な連携による研究開発がぜひとも必要である。

情報セキュリティ 産学官で対策強化

科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センターフェロー(システム・情報科学技術ユニット) 高島 洋典



1979年京都大学大学院修了、同年NEC入社。同社中央研究所支配人などを経て、12年より現職。情報通信分野における技術・社会動向の俯瞰(ふかん)的な調査、ならびに研究開発戦略に関する提言などの作成に従事。



社会の重要なインフラである情報システムを守り、安全かつ安心な社会を実現し、維持していくために、産学官の緊密な連携による研究開発がぜひとも必要である。(金曜日に掲載)